

1 プロジェクト内容

(1) プロジェクト名	AYA世代女性の子宮頸がんリテラシー向上をめざす地域連携プロジェクト
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p><b>【目的1】 行政機関が発信した受診勧奨メッセージの認知率と訴求性の評価 (ベース調査)</b></p> <p>AYA 世代女性および外国籍女性に向けた現行の子宮頸がん検診啓発メッセージの有効性と課題の提示するために調査を実施した。※金城学院大学 人を対象とする研究に関する倫理審査委員会の承認を得て実施 (生変更 2301 号)</p> <p>1) アンケート調査</p> <p>① 瀬戸市在住 20~21 歳の女性への調査・・・回答数 15 件 (回答率 2.2%、再勧奨の回答率 0.34%)</p> <p>② A 大学の学生への調査・・・ 回答数 207 (回答率 19.3%)</p> <p>2) ヒアリング調査</p> <p>③ 瀬戸市在住外国籍の女性へのヒアリング調査 4 件 (市外在住の外国籍女性を含む)</p> <p>3) A 大学学生への調査 (中間報告)</p> <p>図 1. 大学生の性経験、HPV ワクチン接種および子宮頸がん検診受診について</p>	
<p><b>図 2. 子宮頸がんの原因となるウイルスは性交時に感染することを知っていますか</b></p>	<p><b>図 4. 国のリーフレットを読む前および後の検診受診意図 18-19歳 (N=90)</b></p>
<p><b>図 3. 今までにリーフレットを見たことはありますか</b></p>	<p><b>図 5. 国のリーフレットを読む前および後の検診受診意図 20-21歳 (N = 104)</b></p>

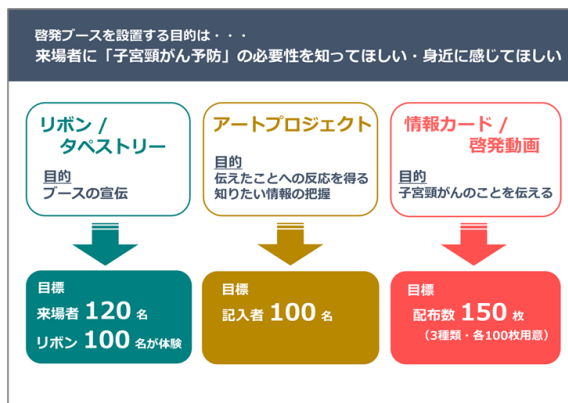
## 【目的2】大学生・行政機関・教育研究機関による連携体制の構築とPR活動の展開

学生・行政機関・教育研究機関の協働による子宮頸がん予防啓発活動の実施と学生が啓発活動に取り組む過程で感じた子宮頸がんや啓発活動についての思いを3者間で共有することができた。

### ④A 大学の大学祭（以下、学祭）における啓発ブースの開設

A大学の学生および地域住民を対象とした学祭において子宮頸がん予防啓発ブースを設置し、啓発活動を実践した。成果を下記に記す。

- ・当日のブースは学生ボランティア19名、教員、瀬戸市保健師で運営した。
- ・目標とした100名を超える方がブースに会場し、子宮頸がん予防啓発カラーを用いたヘアアクセサリーづくり体験を行った。
- ・親子連れを中心に男性や年配者など様々な年齢層が訪れた。
- ・学生ボランティアと来場者の交流が図られ、来場者が楽しんでいる様子がみられた。
- ・学生目線で作成した情報カードは71枚配布した。
- ・来場者のうち70名がブースへの感想を記入した。「子宮頸がん予防について家族で考えたい」など子宮頸がんに関する感想は30名から得られた。



●啓発ブースの目的・目標と実施内容



●啓発カラーのリボンを用いたヘアアクセサリー



●来場者の感想用紙で作ったアートプロジェクト



●啓発ブース会場



●情報カード（3種類作成）

### ⑤大学生・行政機関・教育研究機関の連携体制づくり

(1) プロジェクトに協力した学生ボランティア数：28名

(2) プロジェクトに関するミーティングの実施

- ・全体3回、ブース準備のための作業部会3回実施した（学生ボランティアと教員間）。
- ・学内での決定事項を瀬戸市保健師へ報告・相談、得られた回答を学生・教員で共有した。

(3) 学生ボランティア、教員、瀬戸市保健師による検討会の実施

- ・活動の振り返りと情報共有を目的とする検討会を実施した（実施回数2回、参加学生13名）。

(4)プロジェクトで得られた共有事項

- ・学生ボランティアが、活動を通して子宮頸がんやHPVワクチン接種の正しい情報を得て、自身の予防行動について考える機会となったこと。
- ・学生ボランティアが国のリーフレットの中から「必要と判断した情報内容」と「理解が難しいと感じた情報内容」について。
- ・複数の学生ボランティアからHPVワクチンのことは話題にできるが、子宮頸がん検診については話題にしにくく内容がよくわからないと答えたこと。
- ・行政からのお知らせについて学生ボランティアが感じていること。
- ・今後の啓発活動について学生ボランティアが考えたこと。

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)

	<p>プロジェクト基礎メンバーのほかに、金城学院大学看護学部の教員（李秀訂先生、東千鶴先生、藤門弥生先生）の協力を得て、実施した。</p>
2023年 8月4日～ 8月31日	<p>① <b>瀬戸市在住20～21歳の女性への調査</b> 担当：瀨瀬、上杉、藤門、李、鈴木、市川、瀬戸市</p> <p>1) <b>子宮頸がん検診受診勧奨（コール）に併せて実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 調査方法：子宮頸がん検診受診勧奨（個別通知）の封筒にアンケート調査への協力依頼書を同封した。アンケートへの回答はGoogleフォームを用いた。</li><li>・ 対象者603名から13名（2.2%）の回答を得た。</li></ul>
10月4日～ 11月30日	<p>2) <b>子宮頸がん検診受診再勧奨（リコール）に併せて実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 調査方法：子宮頸がん検診受診再勧奨（個別通知）のハガキにアンケートのQRコードをつけ依頼した。アンケートへの回答はGoogleフォームを用いた。</li><li>・ 594名（上記603名から検診受検者9名除外）から2名（0.34%）の回答を得た。</li></ul>
10月10日～ 10月18日	<p>② <b>A大学学生への調査</b> 担当：瀨瀬、上杉、鈴木、藤門、李、東、市川</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 調査方法：学生が集まる場所（教室、建物の出入り口等）で依頼文を学生ボランティアとともに配布し協力依頼をした。アンケートへの回答はGoogleフォームを用いた。</li><li>・ 対象者1,073名から207名（19.3%）の回答を得た。</li></ul>
2024年1月 ～2月	<p>③ <b>瀬戸市在住外国籍女性へのヒアリング調査</b> 担当：上杉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ まちづくり協働課の協力を得て、4名の外国籍女性へ子宮頸がんの認識、行政機関が提供する健康情報への理解力、活用力についてのヒアリング調査を行った。</li></ul>

<p>2023年5月 ～10月</p>	<p>④ <b>学祭での啓発ブース</b> 担当：鈴木、東、李、藤門、上杉、瀨瀬、市川、瀬戸市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の学部から学生ボランティアの募集を行い、28名の参加が得られた。</li> <li>・学祭当日（10/21）の啓発ブースの運営については、学生ボランティア（19名）、教員（5名）、瀬戸市保健師（2名）が協働で行った。</li> <li>・学生が主体となって啓発ブースのタペストリーを制作した。その絵を用いたチラシを学内アンケート調査実施時に配布しPRした。</li> <li>・啓発ブースは、子宮頸がん予防啓発カラーのリボンを用いたヘアアクセサリ作り、来場者が感想を記入したカードで飾り付けした立体アート作品の展示、学生目線で作成した情報カードの配布、子宮頸がんの啓発動画放映、子宮頸がんに関するパンフレットの配布を行った。</li> </ul>
<p>2023年5月 ～</p>	<p>⑤ <b>大学生・行政機関・教育研究機関の連携体制づくり</b> 担当：瀨瀬、上杉、藤門、瀬戸市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸市保健師と教員間で計3回の会議をもち、アンケート調査および啓発ブースの内容について検討した。学祭後も適宜、情報共有を行った。</li> <li>・啓発ブース取組の一環で、国の作成した子宮頸がんのリーフレット等を学生ボランティアが読み、必要とする情報内容と理解が難しい情報内容について回答した（回答者23名）。結果を一覧表にまとめ、学生ボランティアおよび瀬戸市保健師と共有した。</li> <li>・学祭を経て、学生ボランティア、瀬戸市保健師、教員が参加する検討会を実施した。検討会は計2回実施し、参加学生は計13名であった。検討会は、学生ボランティアが中心に活動を通じた感想や子宮頸がんに関する思い等を自由に話せるよう設定した。</li> </ul>
<p>(4) プロジェクトの今後の課題と展望</p>	
<p><b>【課題】</b></p> <p>① 瀬戸市在住の20～21歳若年女性へ調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全数の対象者に郵送法で調査依頼したが回収率が低かった。再勧奨をしたが回答数は15件にとどまった。</li> </ul> <p>② A大学学生への調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の学部・学年の学生へアプローチができたが、回答数は目標数の半数にとどまった。昼休憩に依頼をした方が回答率は高かったため、今後は依頼時間帯や周知方法を検討し、より参加しやすい環境を整える必要がある。</li> </ul> <p>③ 外国籍女性ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸市まちづくり協働課の協力を得たが必要な協力者数の確保ができなかった。そのため、協力が得られた調査対象者に市外の外国籍女性を紹介してもらったが、調査対象者は4名にとどまった。</li> </ul> <p>④ 学祭での啓発ブース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者の子宮頸がんを考えるきっかけづくりとなったが、来場者は若年女性よりも親子連れの方が多かった。今後はターゲット層のニーズを事前に調査し、来場してもらうための周知方法を検討する必要がある。</li> </ul> <p>⑤ 連携体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接的に3者で話す機会は2回であり、気軽に話せる関係づくりには至らなかった。今後は学生ボランティアの中でリーダーを選出し、リーダーを通して教員とのコミュニケーションを増やすことや学内のミーティングに保健師にも参加してもらえるよう調整を行うなど、対話の機会を増やすことで関係づくりを行う必要がある。</li> </ul>	

**【展望】**

- ・各調査から得られたデータを解析し、結果を学生および瀬戸市へ還元する。
- ・行政が提供する子宮頸がん検診に関する情報資材について学生ボランティアが認識していることを共有し、大学生が情報内容を自分事としてとらえることについて検討する。

(注) プロジェクトに関する参考資料がある場合は、A4サイズで添付してください。